

釧路市女性活躍推進つながりサポート事業【釧路市】

地域の実情と課題

本市は、産業、交通、教育・文化、医療などの都市機能が集積した「ひがし北海道」の中核都市の機能を備えた都市である。

コロナ禍の中、失業した女性に対する就労支援や、金銭的に困難を抱える市民に対する生活保護の紹介など、既存の相談窓口での支援を実施しているが、特に若年層には、困難を抱えていても窓口に出向いたり、電話をかけて相談することができない女性が潜在的に存在している可能性があり、困難を抱えるすべての女性を支援に結び付けることができる体制を構築していく必要がある。

事業の特徴

- 支援が必要な女性の状態に合わせ、訪問支援、同行支援、支援を行う拠点で共に過ごす、学ぶ、地域活動に取り組む、就労体験や実習、就労支援を行う。
- 相談をよせた女性について、支援の対象者として扱うだけでなく、人材としてとらえることとし、活躍できる機会の創出を図る。

事業の効果

相談窓口への相談や、居場所づくり事業の利用により、困難な状態にある女性の状態の改善を図ることができた。

アンケート調査の結果では、事業に大変満足、満足した女性の割合は73.7%であった。

本事業に相談を寄せる女性の個人の困難の解消のためには、SNSやメールなどのやり取りの積み重ねにより、信頼関係を築いたうえで支援体制を組み立てていくなど、丁寧な関わりの継続が必要となっている。

目的・目標

相談支援、居場所づくり事業等を実施することにより、困難を抱える女性の問題の解消を目指していく。

- 相談窓口等への生理用品の配置
【目標値】55か所 ⇒ 【実績値】74か所
- 多様な相談窓口への相談人数
【目標値】60人 ⇒ 【実績値】13人
- 本事業による支援に対して満足した人の割合
【目標値】70% ⇒ 【実績値】73.7%

連携団体

釧路市男女平等参画センター(愛称:ふらっと)
(釧路市指定管理施設)

- 事業周知及び窓口における生理用品の配付で連携

今後の課題

広報紙やポスター掲示、チラシ配布、ホームページやSNS等で事業を周知したところ、生理用品を求めて窓口を訪れる女性数は事業終了に向けて増加し、事業の周知は図られていった。しかしながら相談窓口に相談を寄せた女性の数は想定を下回っており、全ての女性に情報が届いたものの、相談支援を必要とする女性が少なかったということであればよいが、そのことについての検証は困難である。

孤独や困難を抱える女性が存在しながらも情報を得られていない可能性があるため、特に広報紙やチラシなどの媒体を目にする機会が少ない若年層女性に対してのアプローチ方法を工夫し、女性の抱える困難を解消していく必要がある。

事業の概要

釧路市女性活躍推進つながりサポート事業

市内のNPO法人に事業を委託し、困難な状態にある女性を支援するための各種事業を実施しました。

【事業内容】

- 女性を対象とした多様な相談窓口の設置(SNS、メール、通話など)
- 市が設置している相談窓口や各学校の保健室等で、必要とする女性に対して生理用品を配布
- 支援が必要な女性の状態に合わせ、訪問支援、同行支援、支援を行う拠点で共に過ごす、学ぶ、地域活動に取り組む、就労体験や実習、就労支援を行う
- 相談をよせた女性を支援の対象者として扱うだけでなく、人材としてとらえることとし、活躍できる機会の創出を図る
- 定期的に女性が集まり、相談員も交えて、お互いに話し合う場を作る(居場所づくり)
- カウンセラー等による専門相談の機会を設定

【事業周知のための生理用品配布】 事業愛称 : ここなプ

事業の周知のため、相談窓口の連絡先のチラシを添えた生理用品や、カード(名刺サイズ・二つ折り)を配布しました。

生理用品の配布場所については 生理用品を受け取ることをきっかけとして、本事業で設置した相談窓口に限らず、いろいろな相談先につながるができるよう相談機能のある窓口設置場所で配布することとしました。

～生理用品配布場所～

市役所関係各課(福祉部、こども保健部など)、
学校保健室(小学校、中学校、高校、高専、短大、専門学校、大学)
男女平等参画センター、子育て支援拠点センター、社会福祉協議会、
生活支援相談センター など

【配布カード】



【生理用品は紙袋に入れて配布】



≪数値目標の達成状況≫

項 目	目標値	実績値
相談窓口等への生理用品の配置	55か所	74か所
多様な相談窓口への相談人数	60人	13人
本事業による支援に対して満足した人の割合	70%	73.7%